

7. 意向調査

(1) 県民意向調査

1) 調査の目的

沖縄県が今後サッカースタジアムを整備するためには、県民の理解が必要であり、また、整備することによる波及効果は多分野に及ぶものと考えられる。

このため、利用の主体となる県民に対し、サッカースタジアム整備の是非と目標とする波及効果について、意向を調査した。

2) 調査概要

調査対象：沖縄県民(本島内)2,000名を無作為抽出。

調査手法：郵送による配布回収。

調査期間：平成23年12月。

回収数：378件(18.9%)。

3) 調査項目

- ・対象者の属性。
- ・サッカーやその他のスポーツイベント、その他大型イベントの実施現況。
- ・サッカーやその他のスポーツイベント、その他大型イベントの要求。
- ・サッカースタジアム整備により生じる波及効果の種類と要望。
- ・施設のあり方に関する要望。

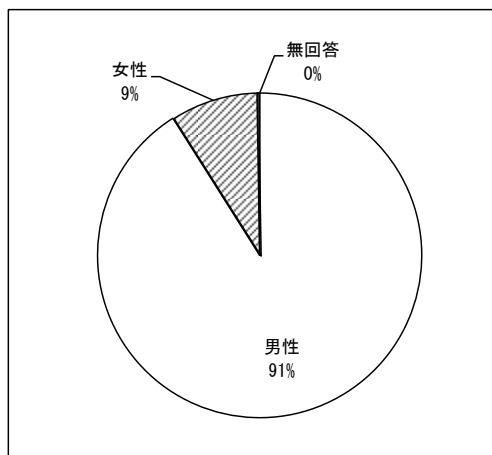
4) 調査結果

〔性別・年齢〕

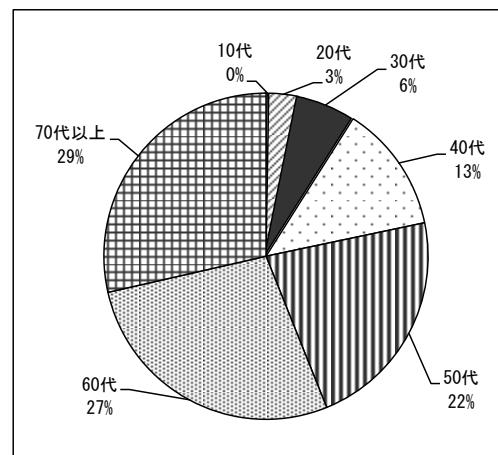
性別は「男性」が9割と大多数を占めている。

年齢は「70代以上」「60代」「50代」が全て2割を超え、50～70代を合わせると8割を占めており、強いて言えば、若い世代からの回答が少ない状況となっている。なお、回答者の平均年齢は60.1歳、最年少は15歳、最高齢は89歳となっている。

性別



年齢



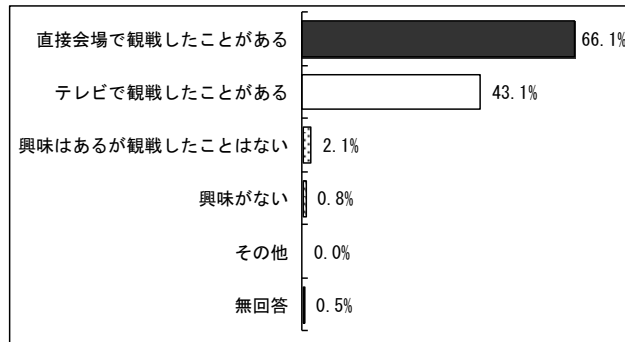
〔スポーツ観戦の有無〕

「直接会場で観戦したことがある」が約7割を占め、「テレビで観戦したことがある」が4割を占め、逆に「観戦したことがない（「興味はあるが観戦したことはない」+「興味がない」の合算）は3%程度であり、9割以上が何らかの形でスポーツ観戦している。

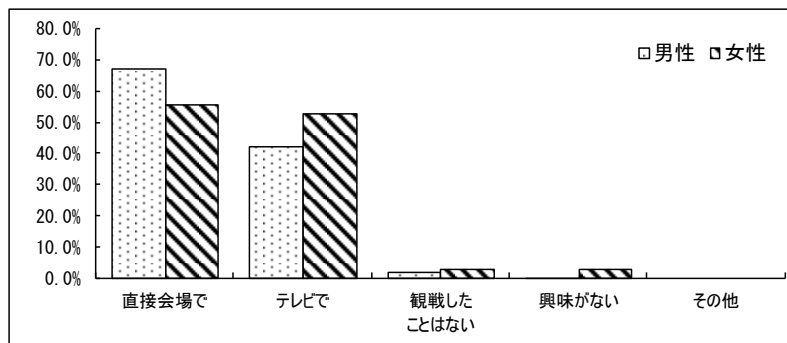
性別で見ると、「男性」の方が「直接会場で観戦したことがある」が8ポイント高い。

年齢別で見ると、年齢が高まるにつれ「テレビで観戦したことがある」が高まる傾向にある。

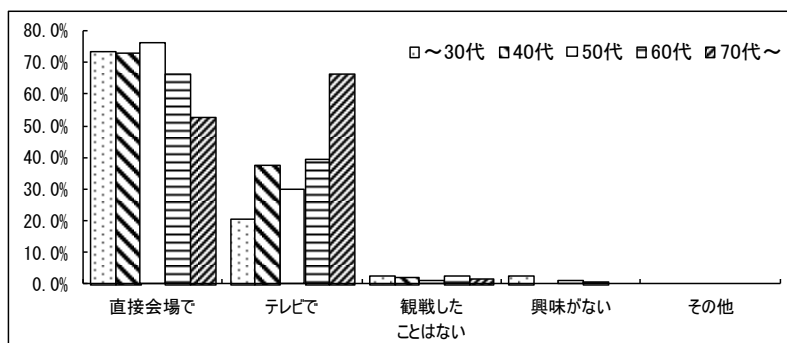
スポーツ観戦の有無



スポーツ観戦の有無：性別クロス集計



スポーツ観戦の有無：年齢クロス集計



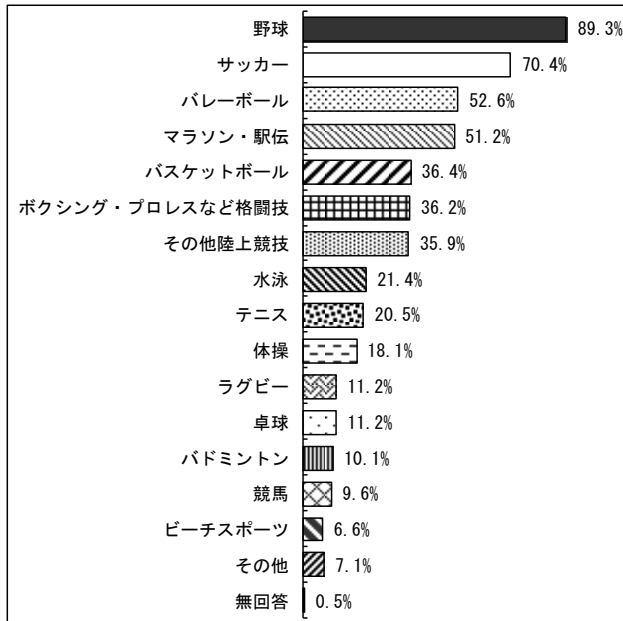
第一章 計画条件の整理

〔観戦経験のスポーツ種目〕

観戦経験のあるスポーツは、「野球」が9割、「サッカー」が7割、「バレーボール」「マラソン・駅伝」が5割となっており、「ビーチスポーツ」を除く全てのスポーツが1割程度以上の観戦となっている。その他のスポーツでは「ゴルフ」「大相撲」に意見が集中している。

家族構成でみると、「野球」に関しては“独身”よりは“夫婦のみ”“夫婦・子あり”“親子”の順に高くなっている。

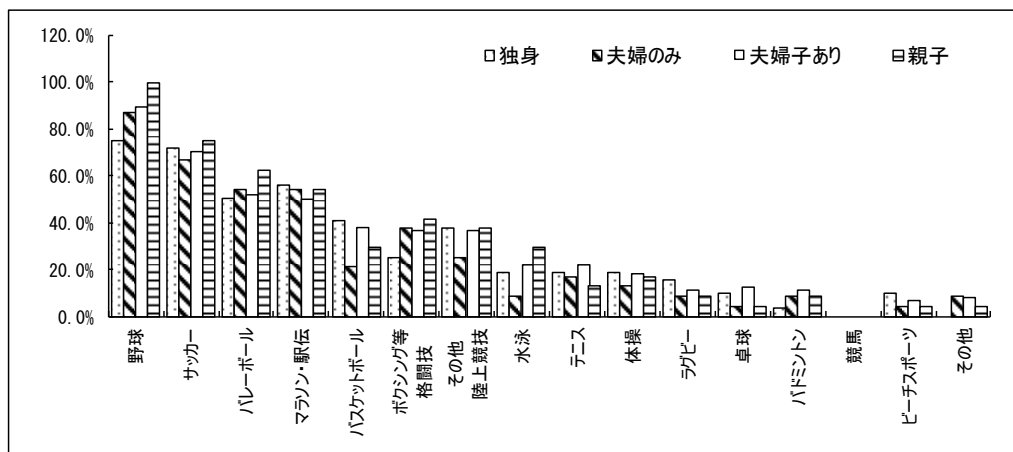
スポーツの観戦経験



その他意見内訳

| | |
|---------|---|
| ゴルフ | 8 |
| 相撲（大相撲） | 5 |
| 空手 | 4 |
| 柔道 | 2 |
| ボウリング | 1 |
| グランドゴルフ | 1 |
| ソフトボール | 1 |
| トライアスロン | 1 |
| 馬術 | 1 |
| ハンドボール | 1 |
| フットボール | 1 |

スポーツの観戦経験：家族構成クロス集計



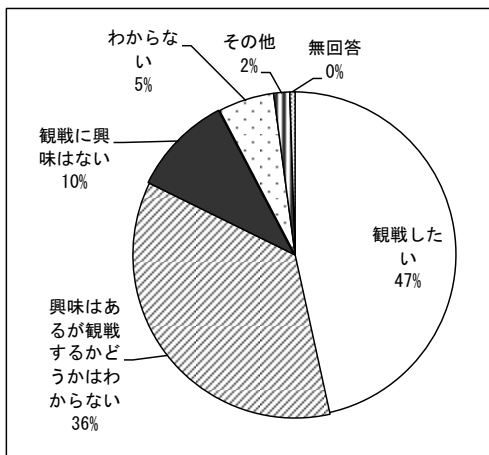
〔新スタジアムでのサッカー観戦〕

「観戦したい」が5割を占め、「観戦に興味はない」は1割となっている。対戦カードなどによっては、多くが観戦する可能性があるものと想定される。（「興味はあるけど観戦するかどうかはわからない」「わからない」への動機付け・対策次第ではある）。

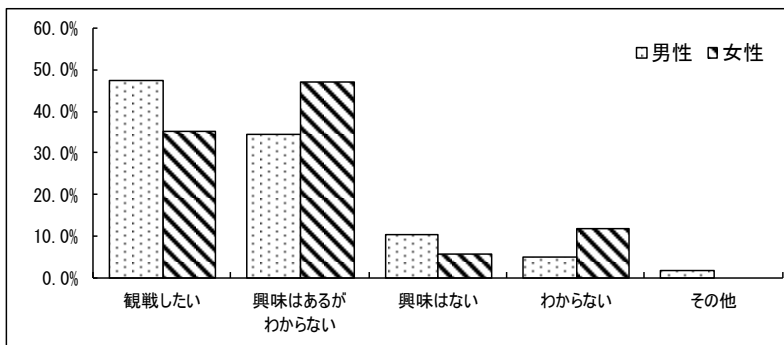
性別で見ると、「男性」は「女性」より「観戦したい」が13ポイント高く、「興味はあるが観戦するかどうかはわからない」が逆に12ポイント低くなっている。

年齢別にみると、「70代～」を除けば、年代が高くなるにつれ「観戦したい」は低くなる傾向にある。

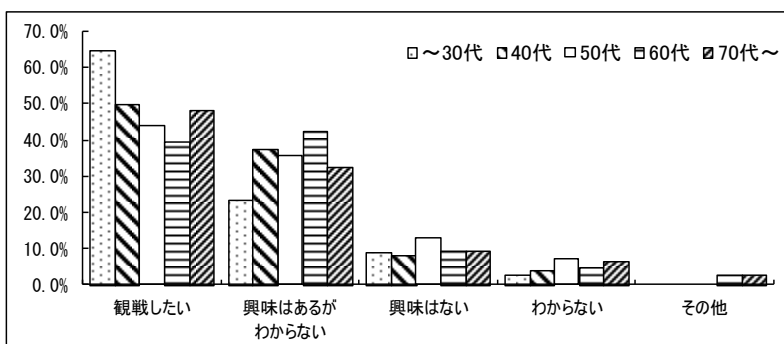
新スタジアムでのサッカー観戦



新スタジアムでのサッカー観戦：性別クロス集計



新スタジアムでのサッカー観戦：年齢クロス集計



第一章 計画条件の整理

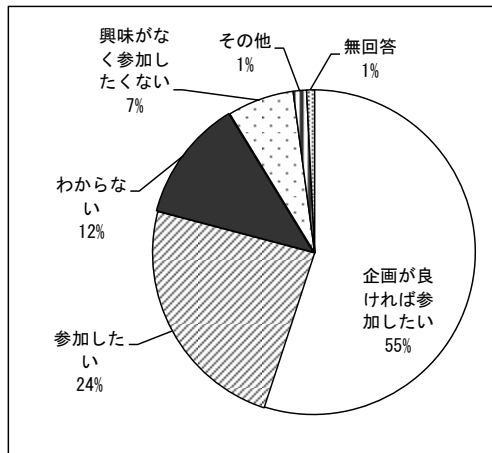
〔新スタジアムでのイベントへの参加〕

「興味がなく参加したくない」は1割弱と、企画内容などによっては、多くの参加が期待できると想定される。

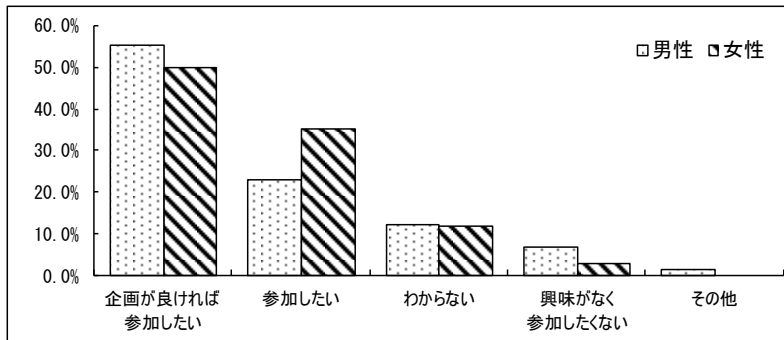
性別でみると、「女性」は「男性」より「参加したい」が12ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「70代～」を除けば年代が高まるにつれ「参加したい」は低くなる傾向にある。

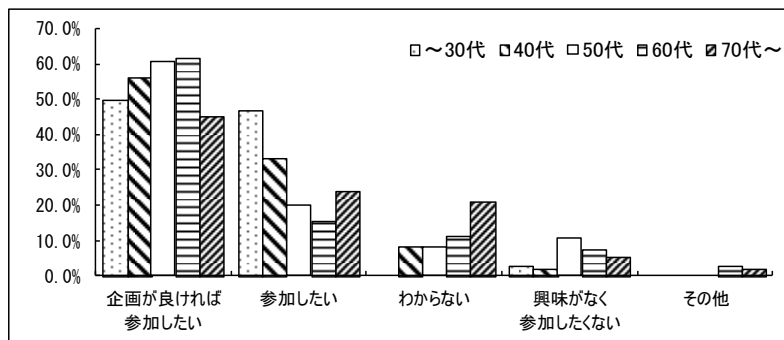
新スタジアムでのイベントへの参加



新スタジアムでのイベントへの参加：性別クロス集計



新スタジアムでのイベントへの参加：年齢クロス集計



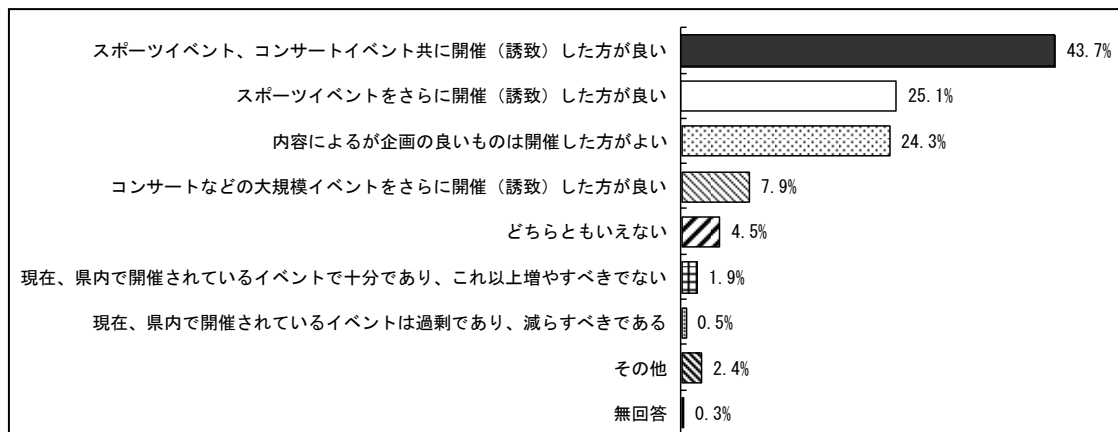
〔大規模イベント・スポーツイベントの開催について〕

「現在、県内で開催されているイベントで十分であり、これ以上増やすべきではない」及び「現在、県内で開催されているイベントは過剰である、減らすべきである」は合算しても3%に満たず、多くが大規模イベント・スポーツイベントの開催を望んでいる。

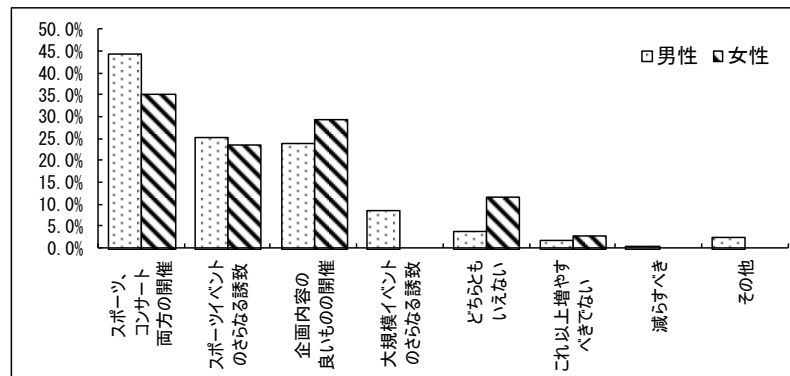
性別でみると、“男性”は“女性”より「スポーツイベント、コンサートイベント共に開催（誘致）した方が良い」「コンサートなどの大規模イベントをさらに開催（誘致）した方が良い」が9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、“～30代”は「スポーツイベント、コンサートイベント共に開催（誘致）した方が良い」が6割と他の年代に比べ2割以上高くなっている。

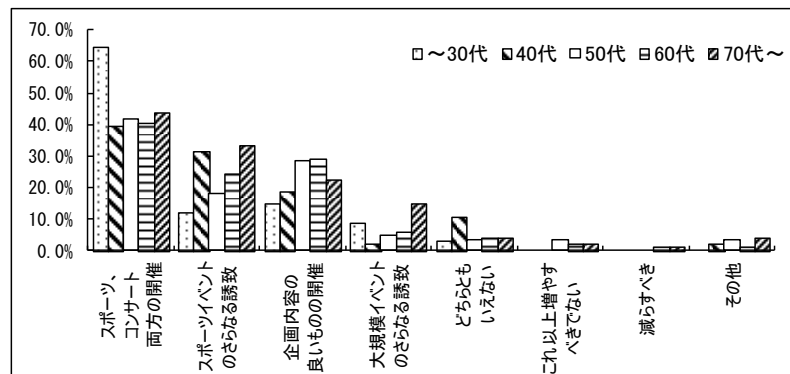
大規模イベント・スポーツイベントの開催



大規模イベント・スポーツイベントの開催：性別クロス集計



大規模イベント・スポーツイベントの開催：年齢クロス集計



〔開催した方が良いとする理由〕

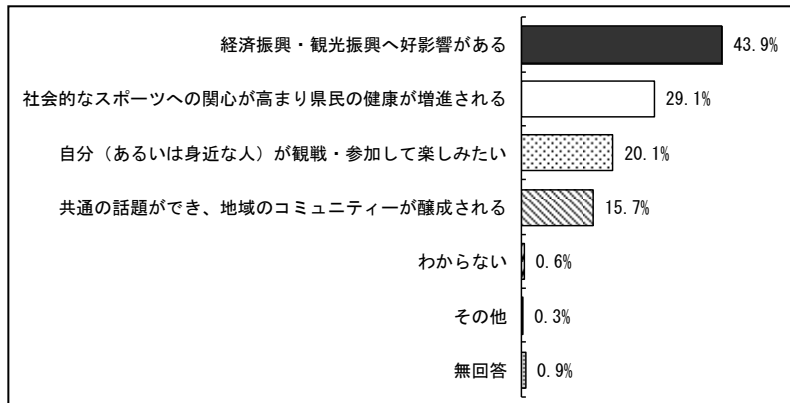
開催すべきとする理由としては「経済振興・観光振興へ好影響がある」が4割で、「社会的なスポーツへの関心が高まり県民の健康が増進される」が3割で、県経済の活性化、健康長寿への寄与が期待されている。

性別でみると、“男性”は“女性”より「社会的なスポーツへの関心が高まり県民の健康が増進される」が13ポイント、「共通の話題ができ、地域のコミュニティーが醸成される」は16ポイント高くなっているが、「自分（あるいは身近な人）が観戦・参加して楽しみたい」は15ポイント低くなっている。

年齢別でみると、年代が高くなるにつれ「経済振興・観光振興へ好影響がある」及び「社会的なスポーツへの関心が高まり県民の健康が増進される」は高くなる傾向にあるが、「自分（あるいは身近な人）が観戦・参加して楽しみたい」は低くなる傾向にある。

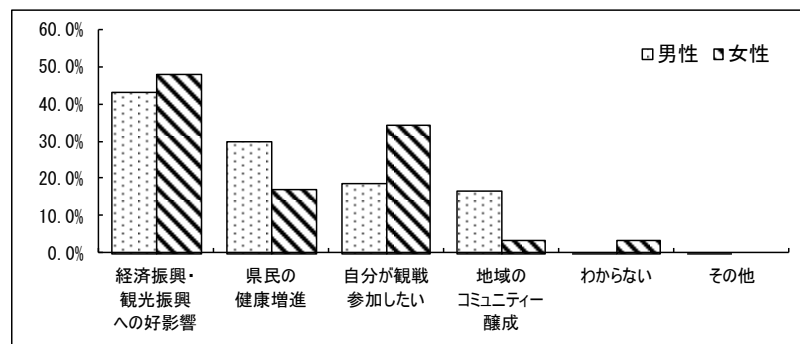
家族構成別でみると、“独身”は「共通の話題ができ、地域のコミュニティーが醸成される」が他に比べ9ポイント以上低く、“夫婦のみ”は「自分（あるいは身近な人）が観戦・参加して楽しみたい」が6ポイント以上低くなっている。

開催した方が良いとする理由

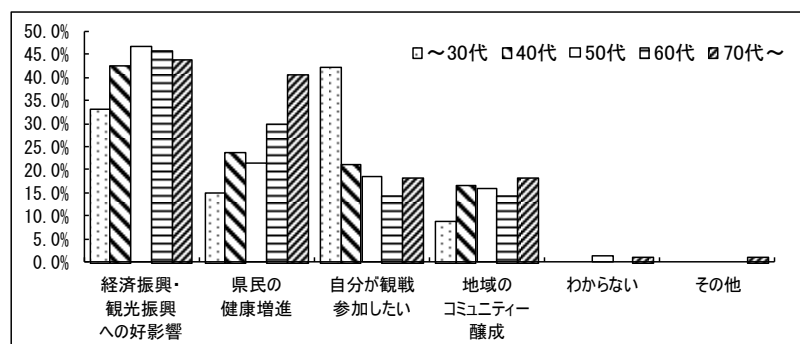


注：前記設問で「①②④⑤」を選択した344件が対象。対象外

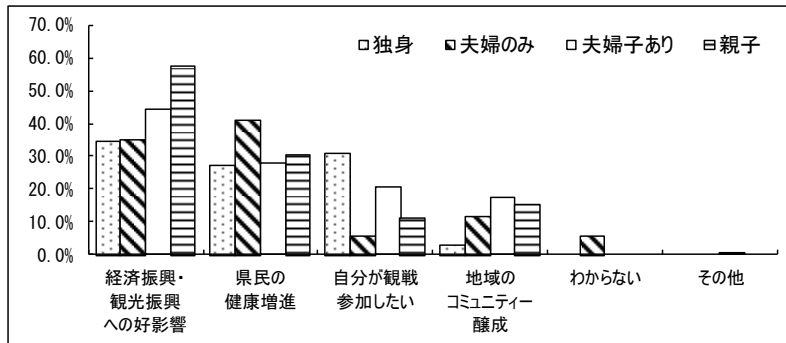
開催した方が良いとする理由：性別クロス集計



開催した方が良いとする理由：年齢クロス集計



開催した方が良いとする理由：家族構成クロス集計



〔サッカースタジアムの整備による波及効果で、重要視するもの〕

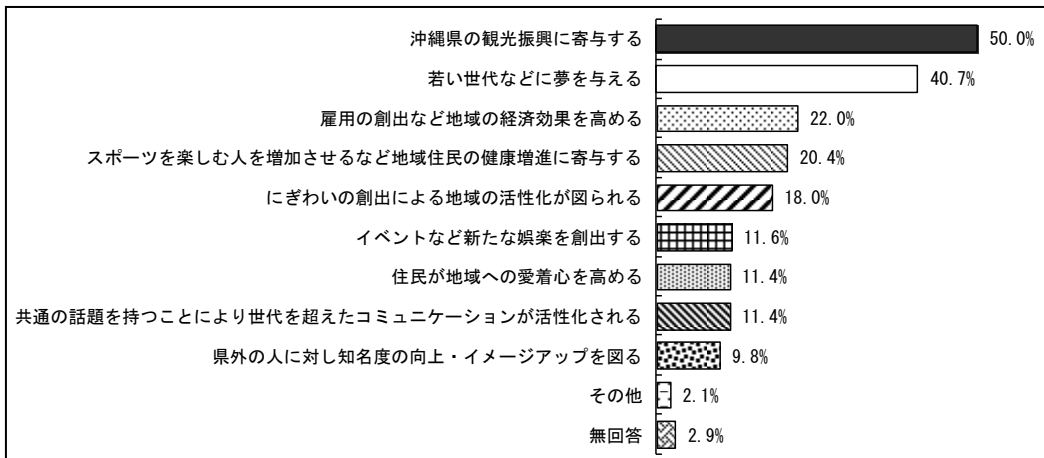
波及効果で重視するものとしては、「沖縄県の観光振興に寄与する」が5割、「若い世代などに夢を与える」が4割を占めているが、他の項目は2割以下となっている。

性別による大きな違いは見られない。

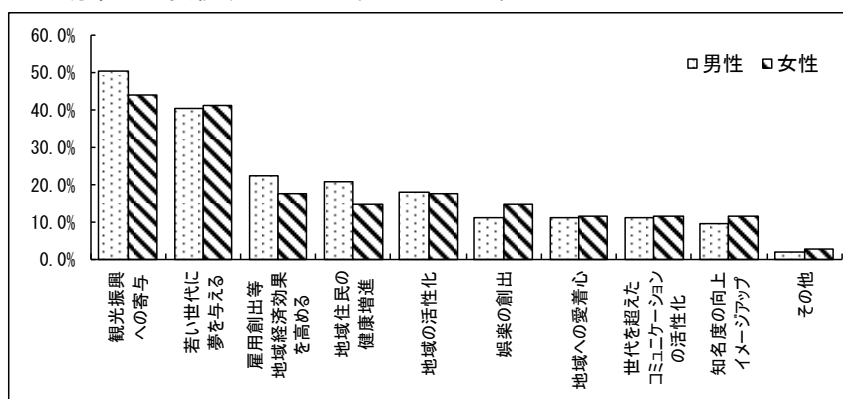
年齢別でみると、年代が高まるにつれ「沖縄県の観光振興に寄与する」「若い世代などに夢を与える」「スポーツを楽しむ人を増加させるなど地域住民の健康増進に寄与する」は高まる傾向にあり、逆に「雇用の創出など地域の経済効果を高める」「にぎわいの創出による地域の活性化が図られる」は低くなる傾向が見られる。

家族構成別でみると、“夫婦のみ”は「沖縄県の観光振興に寄与する」「雇用の創出など地域の経済効果を高める」は他に比べ2割近く低くなっている。

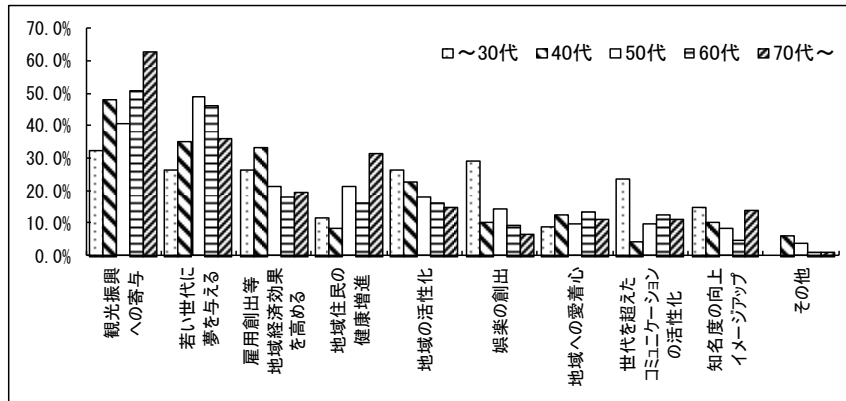
波及効果で重要視するもの



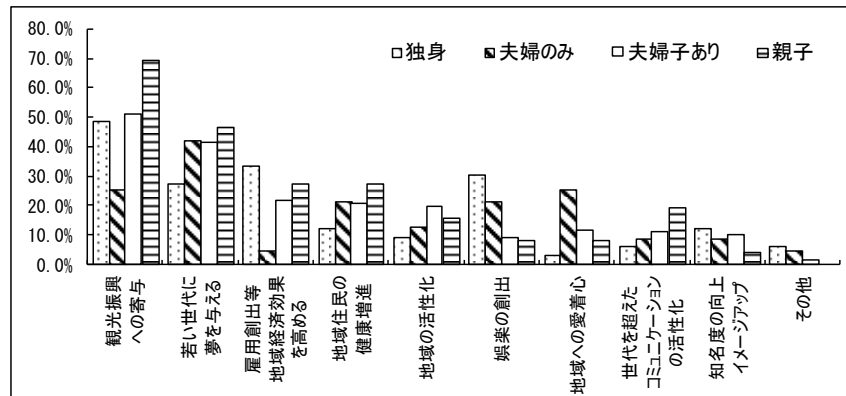
波及効果で重要視するもの：性別クロス集計



波及効果で重要視するもの：年齢クロス集計



波及効果で重要視するもの：家族構成クロス集計



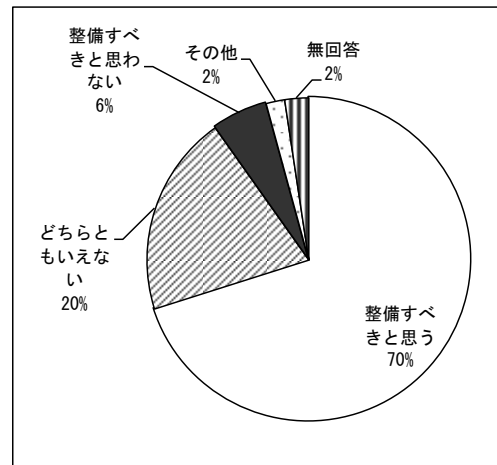
〔新サッカースタジアムを整備すべきか〕

「整備すべきと思わない」は6%と、整備に関し異を唱える人は少なく、多くが整備を望んでいることが伺える。

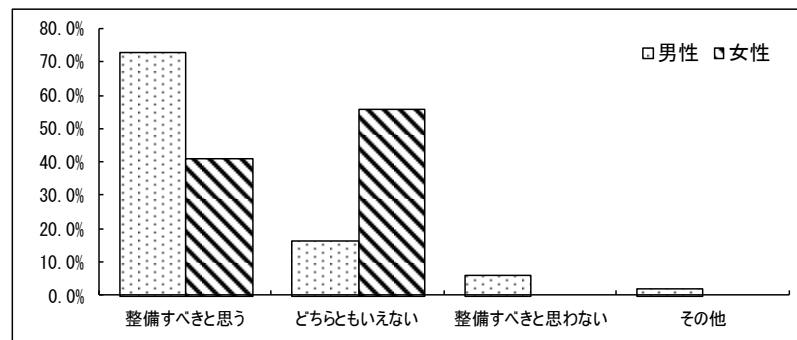
性別でみると、「男性」は「女性」より「整備すべきと思う」は3割以上高くなっている。

年齢別には、大きな違いは見られない。

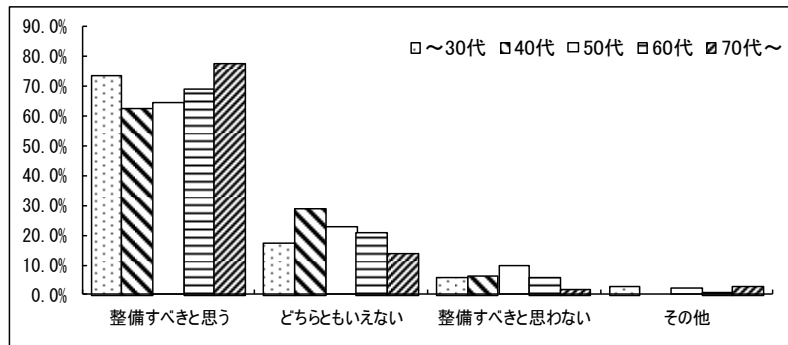
新サッカースタジアムを整備すべきか



新サッカースタジアムを整備すべきか：性別クロス集計



新サッカースタジアムを整備すべきか：年齢クロス集計



〔新サッカースタジアムの整備で重視する点〕

整備に当たって重視するものとしては、「サッカー以外のイベントも開催される多目的な施設」が6割、「公共交通・大規模な駐車場など交通利便性の高さ」が4割、「屋根やゆったりした座席など快適な環境で観戦できる」「大人数が収容でき国際試合も開催される」が3割を占めている。

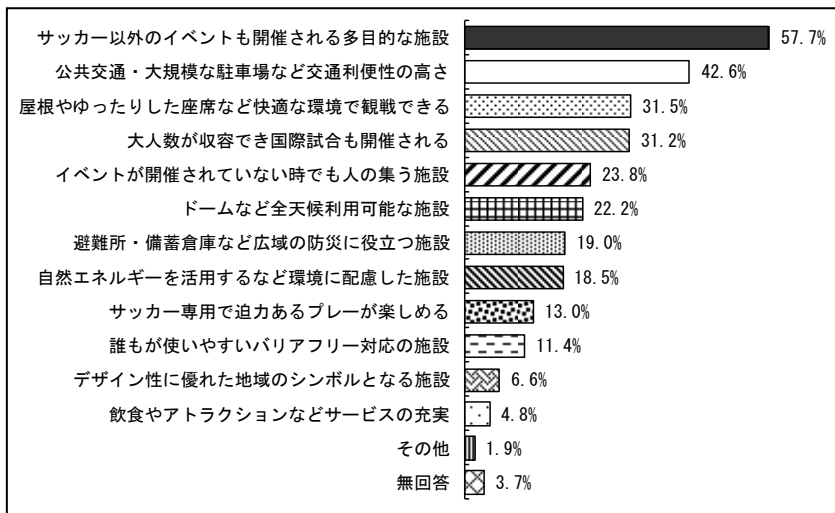
大規模なイベント施設が少ない、車社会への対応、日射し対策など、県内における施設整備において課題とされる事項の対処を望んでいる状況が伺える。

性別でみると、「男性」は「女性」より「大人数が収容でき国際試合も開催される」が18ポイント高く、「ドームなど全天候利用可能な施設」は14ポイント低くなっている。

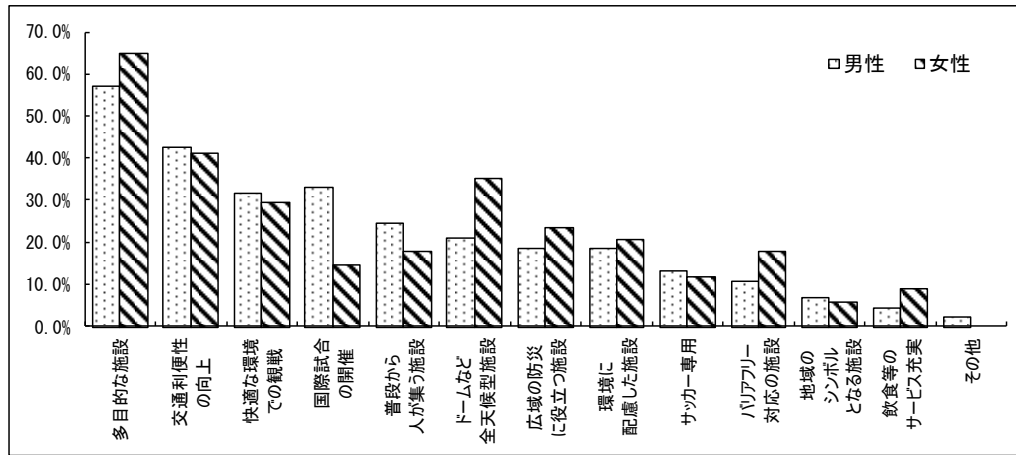
年齢別でみると、「40代」「70代～」は「公共交通・大規模な駐車場など交通利便性の高さ」は他の年代に比べ2割近く低くなっている。

家族構成別でみると、「サッカー以外のイベントも開催される多目的な施設」「屋根やゆったりした座席など快適な環境で観戦できる」については、「独身」「夫婦のみ」「夫婦子あり」「親子」の順に高くなっている。

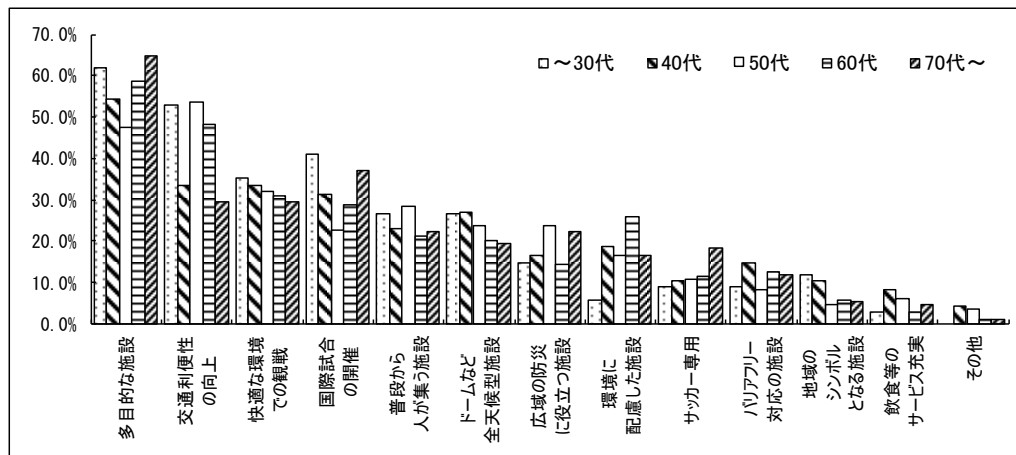
新サッカースタジアム整備で重視する点



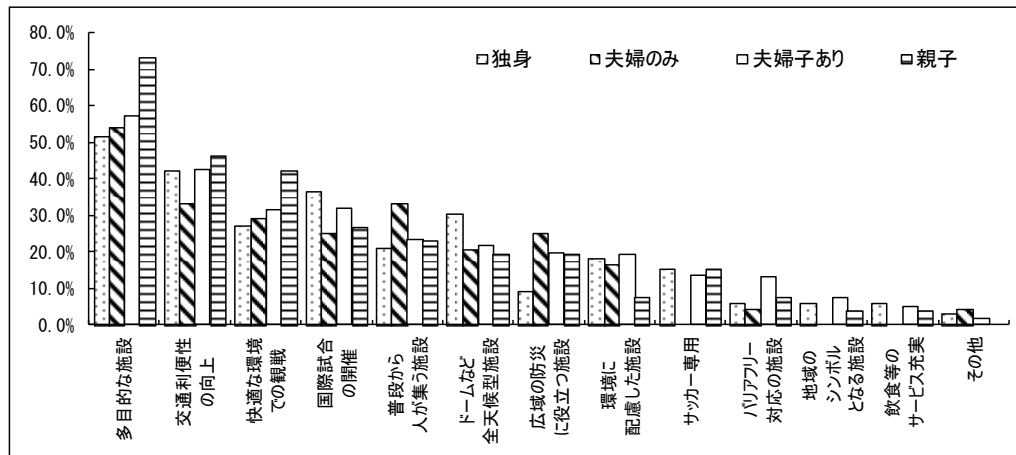
新サッカースタジアム整備で重視する点：性別クロス集計



新サッカースタジアム整備で重視する点：年齢クロス集計



新サッカースタジアム整備で重視する点：家族構成クロス集計



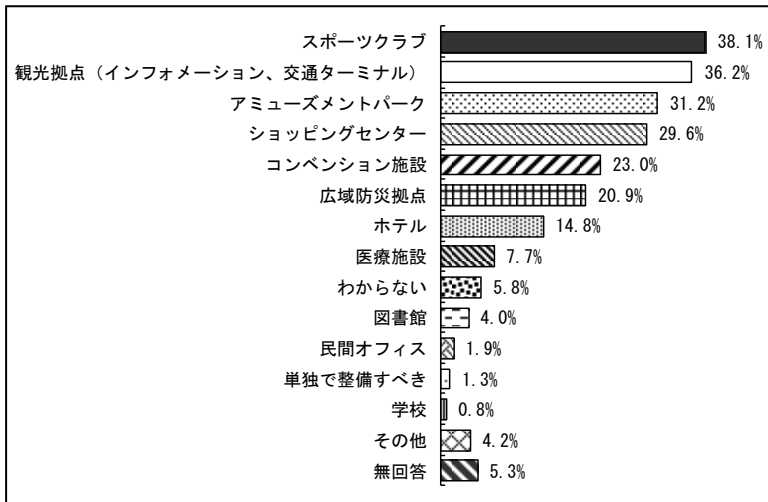
〔新サッカースタジアムと複合的に整備が望まれる施設・機能〕

複合的に整備する施設・機能については、「スポーツクラブ」「観光拠点（インフォメーション、交通ターミナル）」が4割、「アミューズメントパーク」「ショッピングセンター」が3割を占めている。

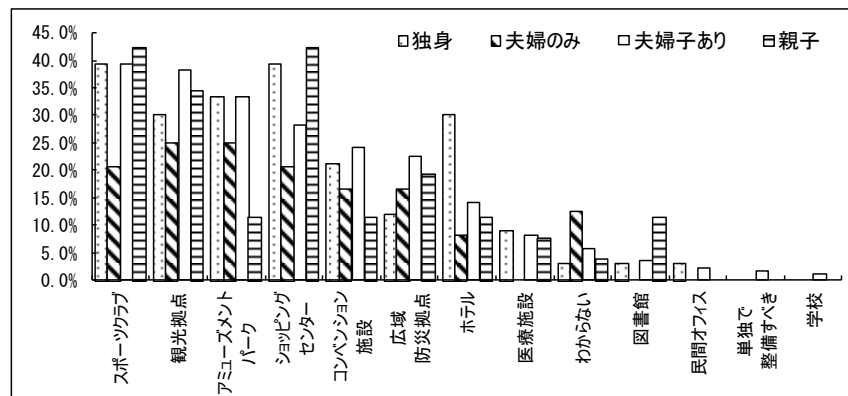
サッカーやイベントが開催されていない時にも気軽に利用できる施設整備・機能の付加を望んでいる状況が伺える。

家族構成別でみると、“夫婦のみ”は「スポーツクラブ」「ショッピングセンター」が他に比べ2割近く低く、“親子”は「アミューズメントパーク」が他に比べ2割近く低く、“独身”は「ホテル」が2割近く高くなっている。

新サッカースタジアムと複合的に整備が望まれる施設・機能



新サッカースタジアムと複合的に整備が望まれる施設・機能：家族構成クロス集計



(2) サポーター意向調査

1) 調査の目的

現在、サッカー観戦を熱心に行っているサポーターは施設の現状や観戦環境などに詳しく、また、整備後もスタジアム利用の核となっていく利用者層と考えられる。このため、施設整備の方向性や観戦者のニーズについて、より具体的な意向を調査した。

2) 調査概要

調査対象：実際に観戦するサポーター

調査手法：試合会場における対面式アンケート。

調査期間：平成 23 年 10 月 23 日(日) 対横河武蔵野 FC 戦。

平成 23 年 11 月 6 日(日) 対V・ファーレン長崎戦。

平成 23 年 11 月 27 日(日) 対 AC 長野パルセイロ戦。

3) 調査項目

- ・対象者の属性。
- ・サッカー観戦活動の現状。
- ・現在の観戦環境に対する問題点。
- ・サッカースタジアム整備の是非。
- ・新スタジアム整備に関する要望。
- ・スタジアムの多目的利用に関する要望。

4) 調査結果

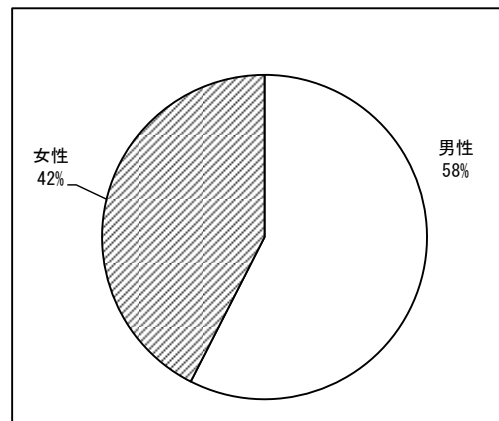
A. 回答者の属性

〔性別・年齢・家族構成〕

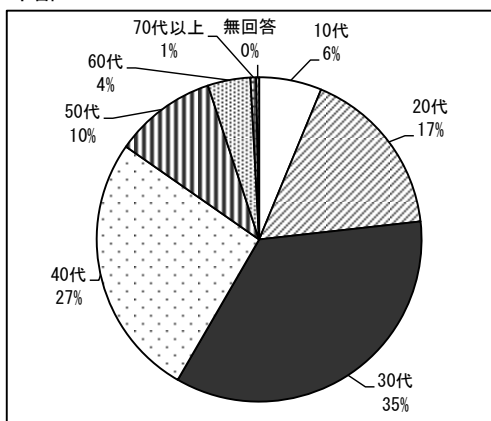
アンケート対象者はサッカー観戦者であり、各属性はそれに近いと考えられる。性別は6割が男性であり、年齢は20～40代で全体の8割を超えている。

家族構成は子供のいる既婚者が全体の5割を占め、次いで、未婚者が3割となっている。

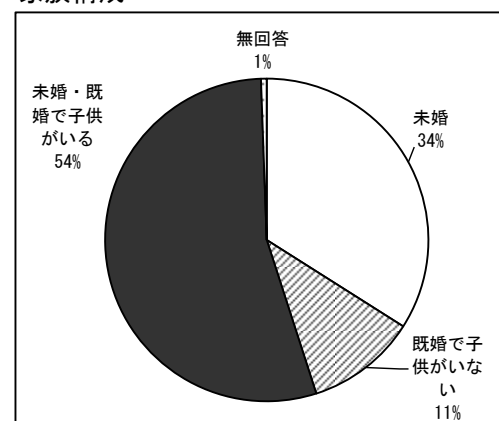
性別



年齢



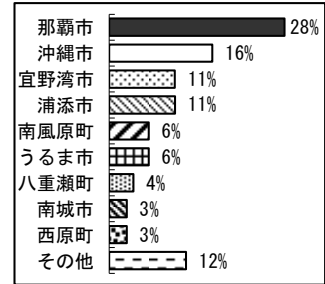
家族構成



〔居住地〕

観客の居住地については、試合会場は沖縄市であったが、約3割が那覇市から訪れており、次いで沖縄市、宜野湾市、浦添市が多い結果となっている。

居住地

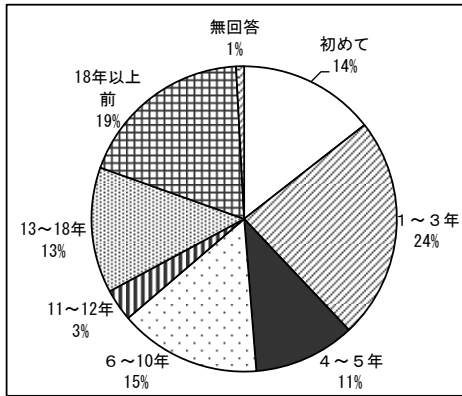


B. サッカーとの関わりについて

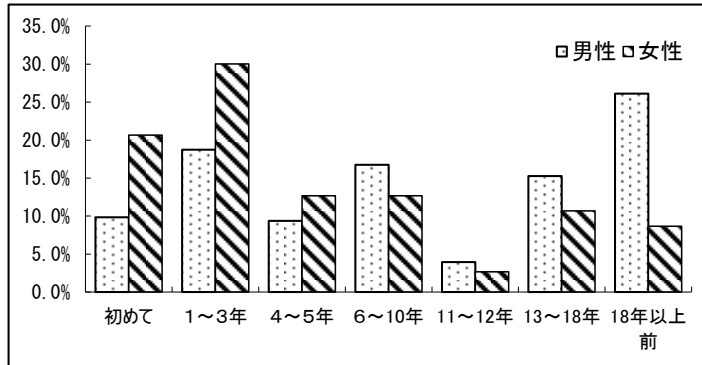
〔観戦歴・サッカー経験〕

サッカー観戦歴は「初めて」から「1～3年」という比較的観戦歴の短い人と「18年以上」という観戦歴の長い人に2極化する傾向があった。観戦歴の長い人は男性や40・50代に多い。これらはサッカー経験に関する質問で男性の6割がプレー「経験あり」と回答し、「過去にプレーしていた」人は50代に多かったことから類推すると、40・50代の男性は他の年代よりも、サッカー経験者が多いため、観戦歴の長い人が多いと考えられる。

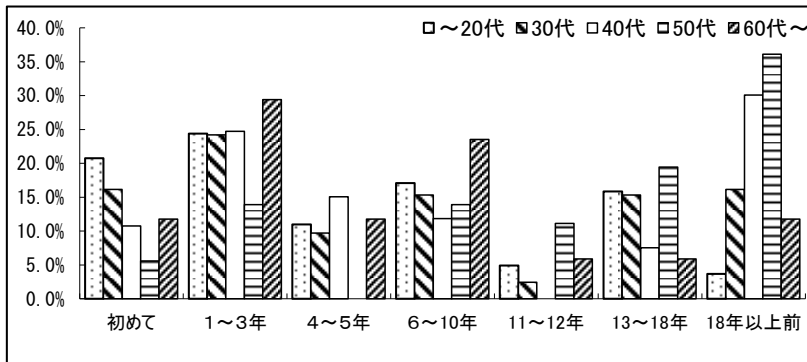
観戦歴



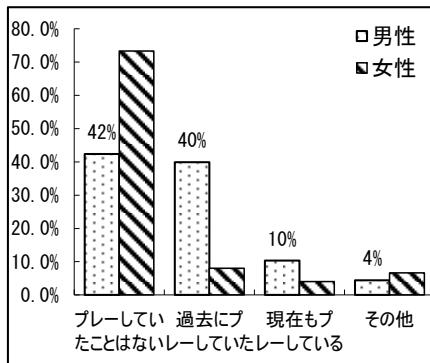
観戦歴：性別クロス集計



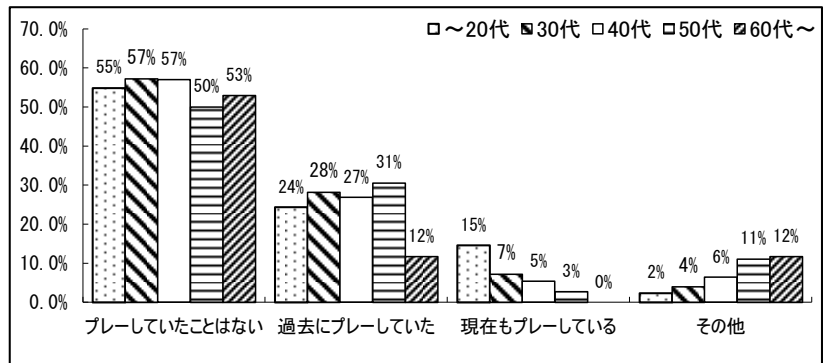
観戦歴：年齢クロス集計



サッカー経験：性別クロス集計



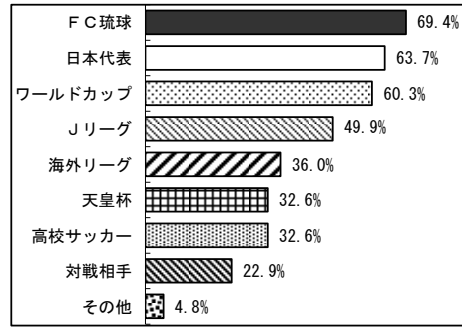
サッカー経験：年齢クロス集計



〔興味の範囲〕

アンケート調査は FC 琉球の試合会場で実施しており、興味のある試合として、7 割が「FC 琉球」と回答している。次いで「日本代表」、「ワールドカップ」が共に 6 割、「J リーグ」が 5 割となっている。

興味の範囲

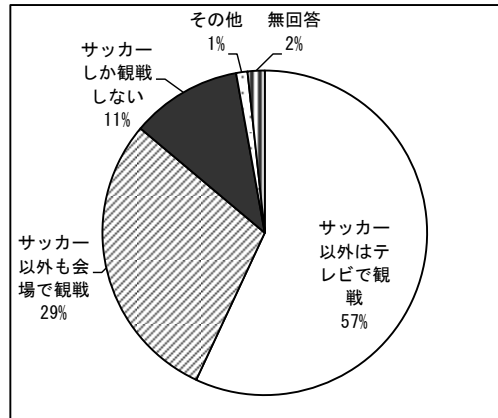


〔サッカー以外のスポーツ観戦〕

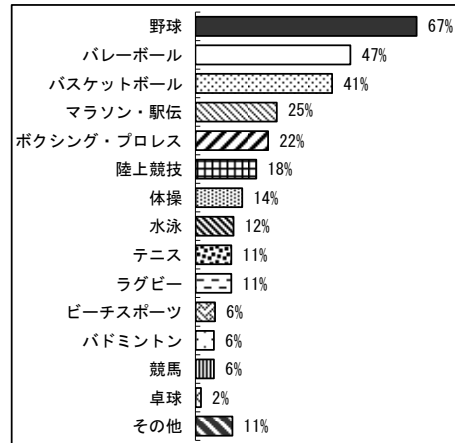
サッカー以外のスポーツ観戦については、6 割が「テレビで観戦する」と回答し、3 割は「会場で観戦する」と回答した。「サッカー以外のスポーツ観戦をしない人」は 1 割であり、サッカー観戦に訪れる人は、元々スポーツ観戦を好む人であることが理解される。

また、観戦する種目については、野球が最も多く、次いでバレーボール、バスケットボール、マラソン・駅伝、ボクシング・プロレスとなっている。

サッカー以外のスポーツ観戦



観戦する種目

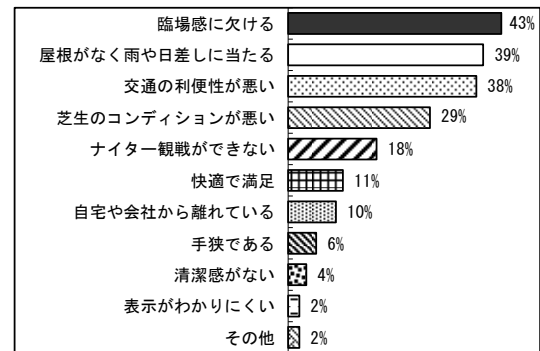


C. 観戦環境について

〔現在の観戦環境に関する印象〕

現在の観戦環境に関する印象について、「臨場感に欠ける」、「屋根がなく快適性が劣る」、「交通の利便性が悪い」という回答がそれぞれ 4 割程度となっている。次いで、3 割の人が「芝生のコンディションが悪い」と回答している。

観戦環境に関する印象



〔これまで利用してよかったスタジアム〕

これまで利用してよかったと思うスタジアムとよかった点について、最も多かったのは「ユアテックスタジアム仙台」であり、「臨場感」や「屋根付き」、「交通利便性」を指摘する意見が多かった。次いで「県立カシマスタジアム」が多く、「臨場感」の他、「施設規模が大きいこと」や「スタジアムグルメ」を挙げる意見があった。

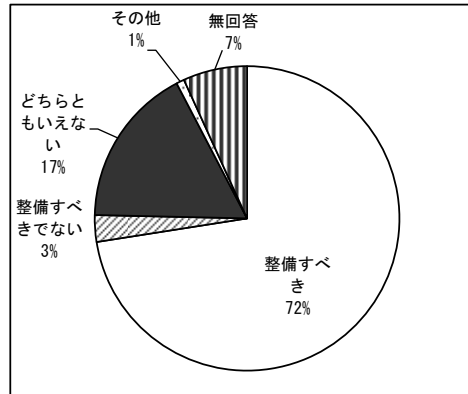
これら以外で比較的多くの人から支持されたスタジアムとしては、「埼玉スタジアム 2002」、「味の素スタジアム」、「日産スタジアム」、「アルウィンスタジアム」、「ホームズスタジアム神戸」、「ベストアメニティスタジアム」等が挙げられた。

D. 新スタジアムへの要望

〔新スタジアムを整備すべきか〕

スタジアムを整備すべきかどうかという問いに対し、7割が「整備すべき」と回答し、「整備すべきではない」という回答は3%にとどまっている。

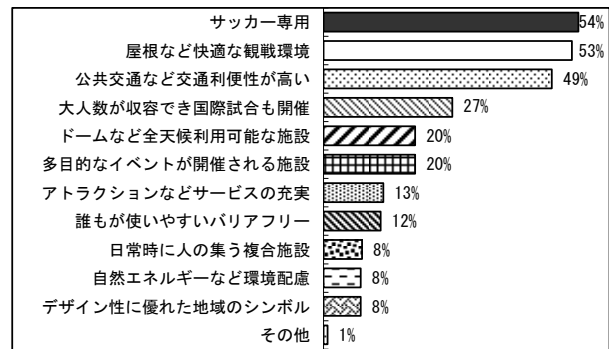
スタジアムを整備すべきか



〔整備にあたって重視すべき点〕

整備にあたって重視すべき点として、「サッカー専用スタジアム」、「快適な観戦環境」、「交通利便性」がそれぞれ5割程度、「大規模な国際試合も可能な施設」が3割程度となっている。

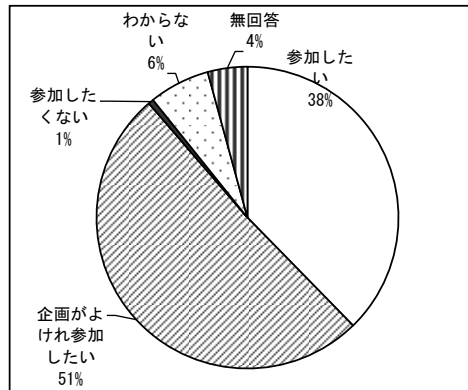
整備にあたって重視すべき点



〔イベント参加意向〕

スタジアムで開催されるイベントへの参加意向について、「参加したい」が4割、「企画が良ければ参加したい」が5割と合わせて9割の人が参加意思を示している。

イベントへの参加意向



〔交通手段〕

利用を希望する交通手段については、自動車が65%と過半を占め、次いでモノレール 13%、路線バス 7%となっている。

交通手段

